

# 水曜通信 2

2017年  
5月

東北学院大学 私立大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」



## 第2回水曜礼拝（公開大学礼拝）は 5月10日（第2水曜日）18:30-19:00

讃美歌：39番「日くれて四方はくらく」

聖書：『ルカによる福音書』24章50節～53節

説教：野村信（本学教授、宗教部長）

「キリストよみがえりて、世界の主となり給えり」

頌栄：540番「みめぐみあふるる」

奏楽：小野なおみ（本学礼拝オルガニスト）

礼拝のあとは、19時10分からそのまま礼拝堂にて東北学院大学グリークラブの学生とグリークラブOB会による合唱で讃美します。



グリークラブOB合唱団コンサート 2015年11月28日

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

## 第1回水曜礼拝報告（講話：鐸木道剛、奏楽：小野なおみ）

4月12日(水) 18:30-19:00

前 奏：J.S.バッハ「おお人よ、汝の大いなる罪を嘆け」BWV622  
讃 美 歌：38番「わがたまのひかり」  
聖書朗読：『マタイによる福音書』5章13～16節  
講 話：「地の塩：大学礼拝の市民への公開」  
頌 栄：539番「あめつちこそぞりて」  
後 奏：E.エルガー「ニムロッド；エニグマ変奏曲より」



4月12日当日の『河北新報』の朝刊に掲載され、市民の方々66名が参加され、また教職員の参加も多かった（感謝！）。

### 【講話概要】

「地の塩」とはそもそも少数者です。東北学院の卒業生は18万人に及びますが、キリスト者が人口の1%の日本ではやはり少数者です。東北学院のすべての学生は礼拝に出席します。そこで神中心の世界観を経験し、そしてそれが近代を支えていることを本学の卒業生は知っています。「地の塩」とならんことを。

（鐸木道剛）

礼拝に続いて19時15分から20時まで、ホーイ記念館1階のコラトリエ・リエゾンにて、鐸木道剛教授が、わが礼拝堂のヒートン・バトラー＆パイン工房（以下、HBB工房）のステンドグラス研究の進捗状況を報告しました。

### 【曲目解説】

前奏の「おお人よ～」は、バッハが教育目的として作曲した「オルガン小曲集」の一曲です。この曲集は学院大のオルガニストたちにも重要なレパートリーとなっており、今年も受難週にはこの曲が日々演奏されたようです。

後奏はこれからの水曜礼拝を支える二つの大きな柱、ステンドグラスとオルガンを結びつけるものとして、19世紀と20世紀をまたいで活躍したイギリスの国民的作曲家、エドワード・エルガーの作品から受難週の思いを込めて、葬送や追悼の場面でしばしば演奏される「ニムロッド」を選曲しました。（小野なおみ）

## 2017年2月23～27日のイギリス調査報告（承前）

本学文学部の鐸木道剛教授、吉田新講師、広報部長の内海睦夫氏、横浜の光ステンド工房主宰の平山健雄氏はイギリス19世紀ステンドグラスを現地調査しました。

ピーターバラ大聖堂、イーリーのステンドグラス美術館、ロンドンのフィンズベリー地区にあるサン・ジェイムズ教会、オックスフォードのマンチェスター・カレッジ・ライブラリーと、初期から中後期に渡ってのHBB工房の作品を調査しました。当初のヒートン・バトラー工房にターンヒル・バイン（Tirnhill Bayne）が加わった後の作風の充実さが当学院のステンドグラスに表れていることが確認出来ました。改めて始まったゴシック・リヴァイヴアル期の中世に対するステンドグラスの模索の多様性を見ることが出来たのは素晴らしい収穫でした。（平山健雄）



ピーターバラPeterborough大聖堂



HBB工房のステンドグラス 1875年  
ピーターバラ大聖堂 西奥正面



今回の調査でHBB工房の複数の作品を見るに、東北学院が有するステンドグラスは同工房の作品のなかでもかなり完成度の高い作品の一つであることが分かった。HBB工房の作品は時代によって様式や画風に変化がある。

今後、さらに多くの作品を調査することにより、工房の作品の全体から「昇天」ステンドグラスを位置づけることができるだろう。（吉田新）

ピーターバラ大聖堂では一番奥の正面にHBB工房のステンドグラスがあります。本学院のステンドグラスとは全く作風が違います。工房は集団制作ですから、そもそも個人様式を示さず「芸術」ではなく「産業」です。しかしその「産業」が、かつて「芸術」の役割だった美しい「神の国」を再現しています。（鐸木道剛）

## ブダペストでのジャポニズム学会参加報告



ハンガリーのジャポニズム展「ドナウ川沿いのゲイシャたち」  
会期：2016年12月16日～2017年3月12日  
ポスターに使われているのは、ベルタラン・セーケイの「日本の女」



ポーランドのスワフスキ氏（左）とフランスのラカンブル先生（中央）と鐸木（右） 2017年3月2日

鐸木道剛教授は、3月2日と3日、ブダペストのフェレンツ・ホップ東洋美術館主催の学会（Japonisme in Global and Local Context）に参加しました。19世紀ヨーロッパの中世復興は、そもそも近代批判であり、ジャポニズムと軌を一にするはずであり、ジャポニズムも、そのような観点から研究可能です。

## ダルムシュタット調査報告

吉田新講師は3月1日、2日にドイツのダルムシュタットにあるヘッセン州立博物館において、画家ハインリヒ・ホフマン（Heinrich Hofmann 1824-1911）の調査を行いました。ホフマンの聖書物語絵がHBB工房でステンドグラスの図柄に使用されているからです。ダルムシュタットはホフマンの生地です。また、同博物館は貴重なステンドグラスのコレクションも有しています。ここにも19世紀の反近代の新様式（ユージェントシュティル）とステンドグラスとの関連が見いだせるでしょう。



ハインリヒ・ホフマン（1824-1911）版画集「われを覚えよ！」  
Gedenke Mein! 1893年（15版）初版1885年 ミュンヘン刊行



HBB工房作  
掛川市立ステンドグラス美術館所蔵

東北学院大学  
私立大学研究ブランディング事業通信 第2号  
2017年4月30日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
TEL：022-264-6405  
E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp  
URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/